

団長の心のものさし

心のものさし
危うし！
休刊か！？

ただ愚痴る…失礼な本号

『団長の心のものさし』皆さん、読んでいますか？

今回はただの愚痴の紙面。失礼な表現が、過激な表現があるが、真意を汲み取ってもらえれば、このうたおにのためにもなると思うのだが…。

4月に創刊して早16号。いつもの論調だ。目新しいこともないのだろう。いつも聞いていることだ、と読んでいたのかもしれない。確かに…。

うたおにが36年という歴史を積み上げてきた中で、僕が30年近く団長を務めてきた中で、10年以上指揮者としてメンバーと音楽をしてきた中で、慣れっこになってしまった部分を見直したい…そんな思いで「僕は毎回通信を出す」と宣言して、そのことを守ってきている。本当に忙しくて時間がなくても、打ちのめされて書く意欲が持たなくても、やっぱり書き続けることに意味を持たそうと、やっぱり今回も書いている。

勝手に決めて勝手にやっている、と言われればそれまでだ。コピー代の無駄遣いかな、と責任を感じるくらいだ。だが僕が問題提起するのは、うたおにの弱点である「表現意欲の消極性」だ。特に共感していること

に対する意思表示である。賛同できない、快く思わないことに対しては、ある程度我慢もするだろうが、抱えきれなくなれば必ず爆発する形で表現する。歓迎は出来ないが…。受け入れられているかどうか分からない不安、怖さ…でも、そういう評価されることをやり続け泣けばならぬい立場への理解がもう少しあってもいいのではないだろうか。

声に出そう、表現しよう

民主主義の中に生きている。でもそれが真に実を結ぶことが出来るのは、個人の責任を果たすことが大前提である。これが日本人には馴染まない僕は考えている。日本に本当の民主主義は根付きにくいだろうと。だから、リーダーを立てるのに、ちょっと強引なリーダーが現れると「独裁的だ」とか「好き勝手やって」と文句の嵐。それなら、「あなたがやれば」と問いかけると「そんな力あるわけじゃない」と開き直られる。これ、うたおにでかつて実際に起こった問答。ちなみに僕じゃないよ。

表には顔を出さず、井戸端会議的に中傷し仲間を集め世論を操作する。

徒党を組む形だ。みんなが意思表示をはっきりしないで、事態がどちらに向いても対応できる、スーパーマルチレスポンス！これぞ、日本民族の英知だね！実はそれなりの評価をしていることも事実。ただ、音楽は表現することがすべてだ。そんな活動をしている合唱団員が、表現に消極的では困るのである。そこが今回の愚痴の切り口だ。

スーパーマルチレスポンス

手を上げる人がいない。応援する人がいない。

提案する 声なき反応 予想採決

こんな図式がある意味、当たり前。上手くいけば「声なき反応」は「賛成」になり、上手くいかなければ「反対」に変貌する。どう？スーパーマルチレスポンスの凄さ！

提案する 声出す賛成 完全採決

この図式であれば、上手くいけば喜び倍増、仮に失敗しても誰かの所為になることはないし、志や意図が消えることはない。これが民主主義のルールだ。

ディープレスボンスの薦め

ディープレスボンス = 深い反応（特に賛成の場合は、それは深い共感となる）。これはリーダーにとって強い後ろ盾、勇気、応援に繋がる。疑心暗鬼にならずにすむ。そう、僕は何十年も疑心暗鬼の状態、みんなを仲間だと信じ、不安と向き合い、前に立って思いを伝え続けてきた。ここに来て少々自信を失いかけている。メンバー個々の問題、団の総括的な問題…どうしても理解できない、いや、出来ないのではなく、本当に思いが伝わってればこんなことにはならないだろうという疑問から生じる不安、恐怖、自信喪失etc.。

経年劣化か？長期政権の弊害か？職を辞したいのではなく、辞めたほうがいいのかもしれない。

「心のものさし」に対する反応の話では、結局ないのだ。

うたおにの5月24日(月)の様子

練習内容
「Mass From Two Worlds」より
Gloria
世界の約束
O Danny Boy
鶴
夕焼け

指揮者の思いが伝わらない。その方法論が功を奏さない。信頼関係の上

にしか成立し得ないから、これをアンサンブルだと呼べる。そのことに自信を失う。

でも諦めない！それも自分で決めたこと。悔しい。受け入れる強さ、深さ…それに耐えうる許容力。重い。いつになっても慣れない。普通の団員に戻りたい。ただ歌っていたい。歌うことで果たせる責任、吸引力のほうに分かりやすいから。